

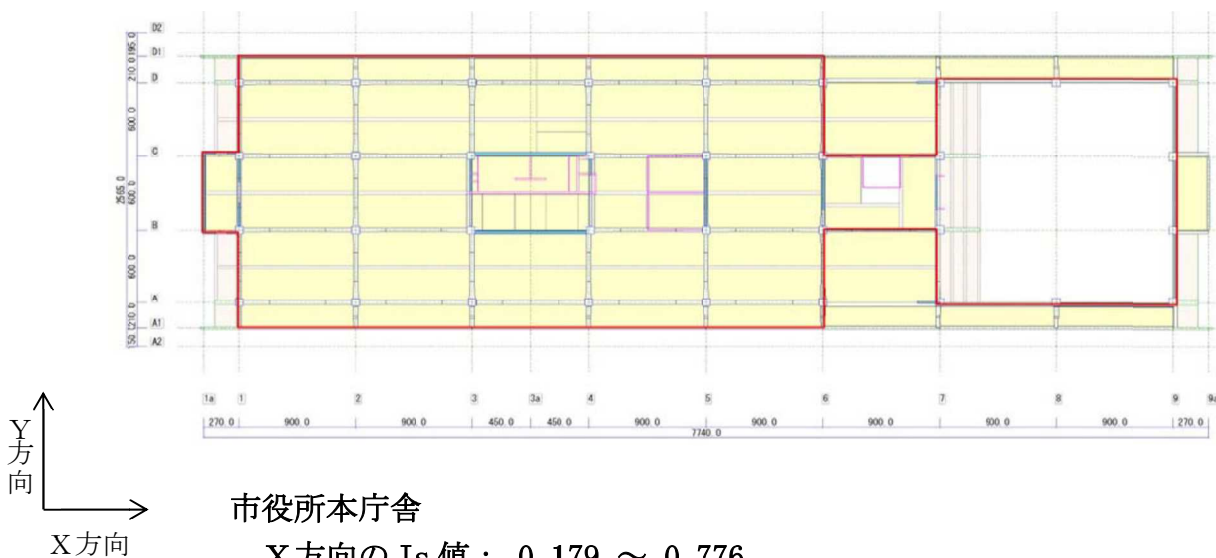
◆公共施設耐震診断結果

1 本庁舎：昭和 39 年竣工 【平成 27 年度実施】

$I_s=0.078 \sim 0.776$

「大地震時(阪神・淡路大震災クラス震度 6 強～7 クラス)の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い部分がある。」

(判定指標値： $I_{so}=0.675$ 以上が耐震性能を有していると判断)



【参考】 構造耐震判定指標 I_{so} 値の算定方法は以下によります。

$$I_{so} = E_s \times Z \times G \times U$$

E_s ：耐震判定基本指標（=0.6）

Z ：地域指標（=0.9：網走市）

G ：地盤指標（=1.0）

U ：用途指標（=1.25：官庁施設）

$$I_{so} = 0.6 \times 0.9 \times 1.0 \times 1.25 = \underline{0.675}$$

2 総合体育館：昭和 51 年竣工 【平成 27 年度実施】

① 管理棟

$I_s=0.913 \sim 1.885$

「大地震時(阪神・淡路大震災クラス震度 6 強～7 クラス)の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性は低い。」

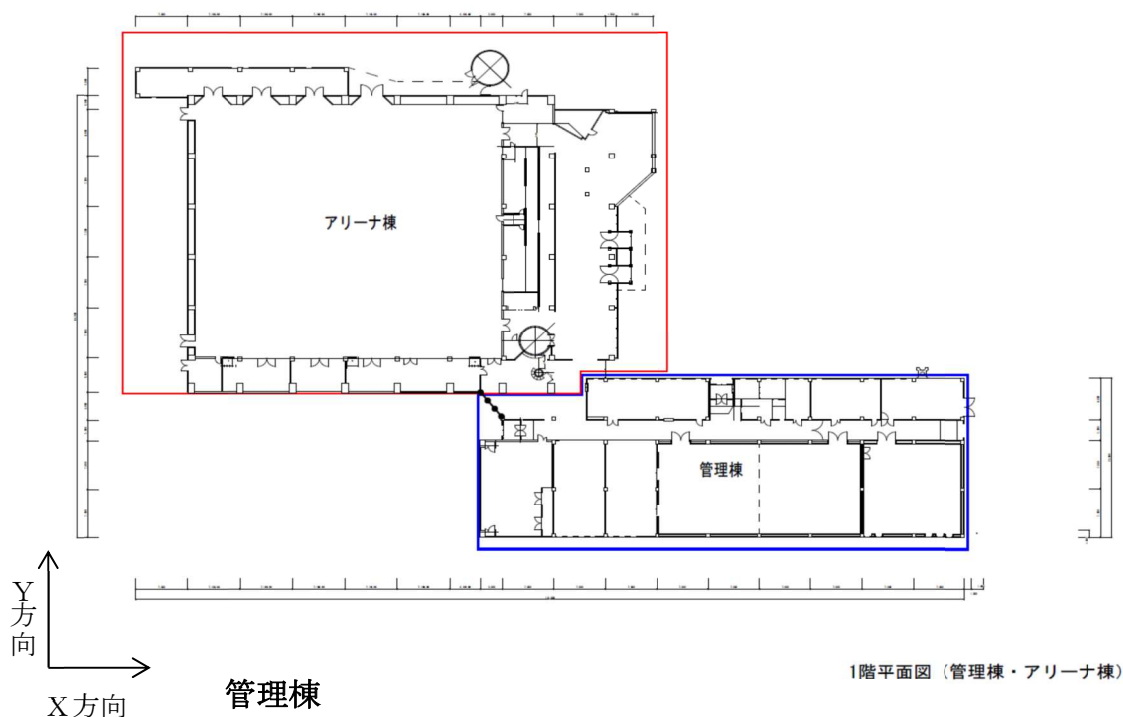
(判定指標値： $I_{so}=0.675$ 以上が耐震性能を有していると判断)

②アリーナ棟

$I_s=0.230 \sim 3.028$

「大地震時(阪神・淡路大震災クラス震度 6 強～7 クラス)の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い部分がある。」

(判定指標値： $I_s=0.675$ 以上が耐震性能を有していると判断)



管理棟

X方向の I_s 値： $0.976 \sim 1.885$

Y方向の I_s 値： $0.913 \sim 1.205$

アリーナ棟

X方向の I_s 値： $0.230 \sim 2.234$

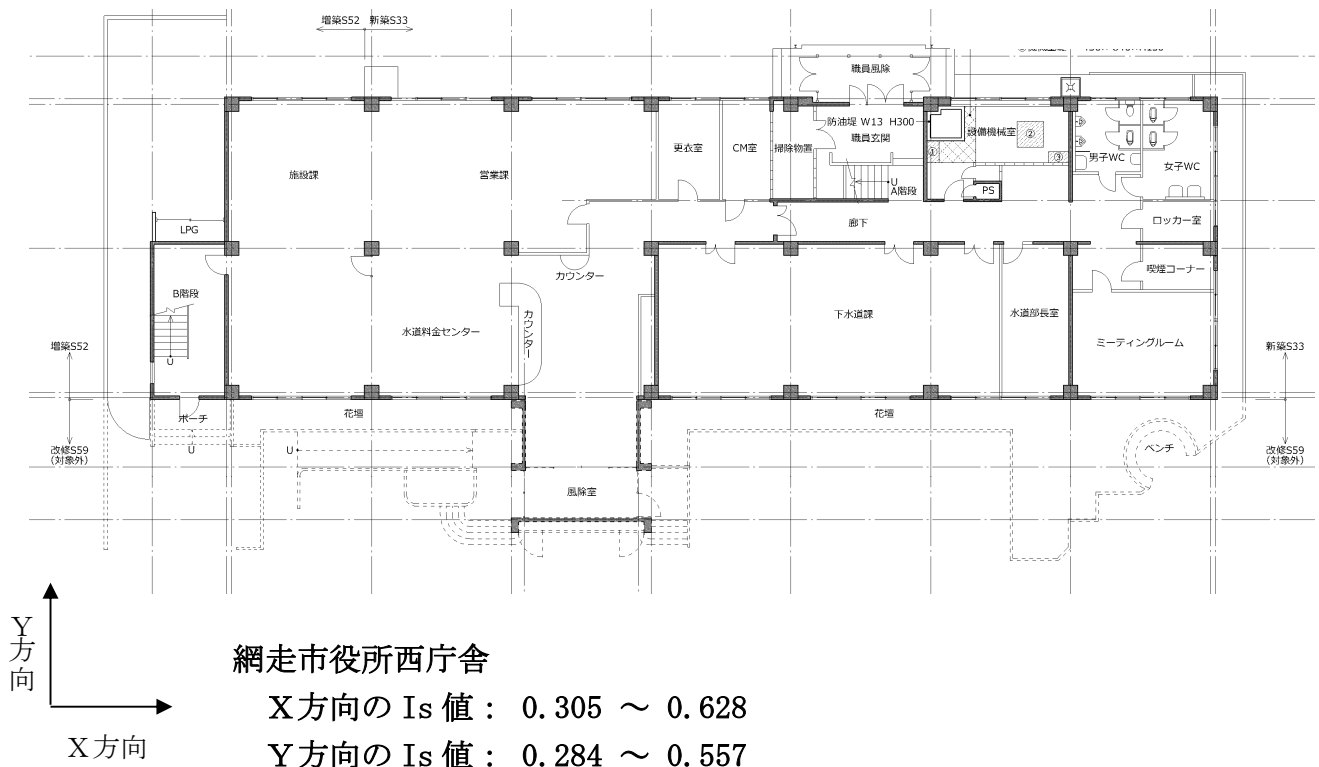
Y方向の I_s 値： $0.332 \sim 3.028$

3 西庁舎：昭和 33 年竣工 【平成 28 年度実施】

$I_s=0.284 \sim 0.628$

「大地震時(熊本地震、阪神・淡路大震災クラス：震度 6 強～7)の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い部分がある。」

(判定指標値： $I_{so}=0.675$ 以上が耐震性能を有していると判断)

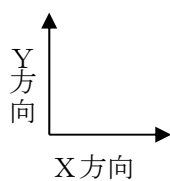
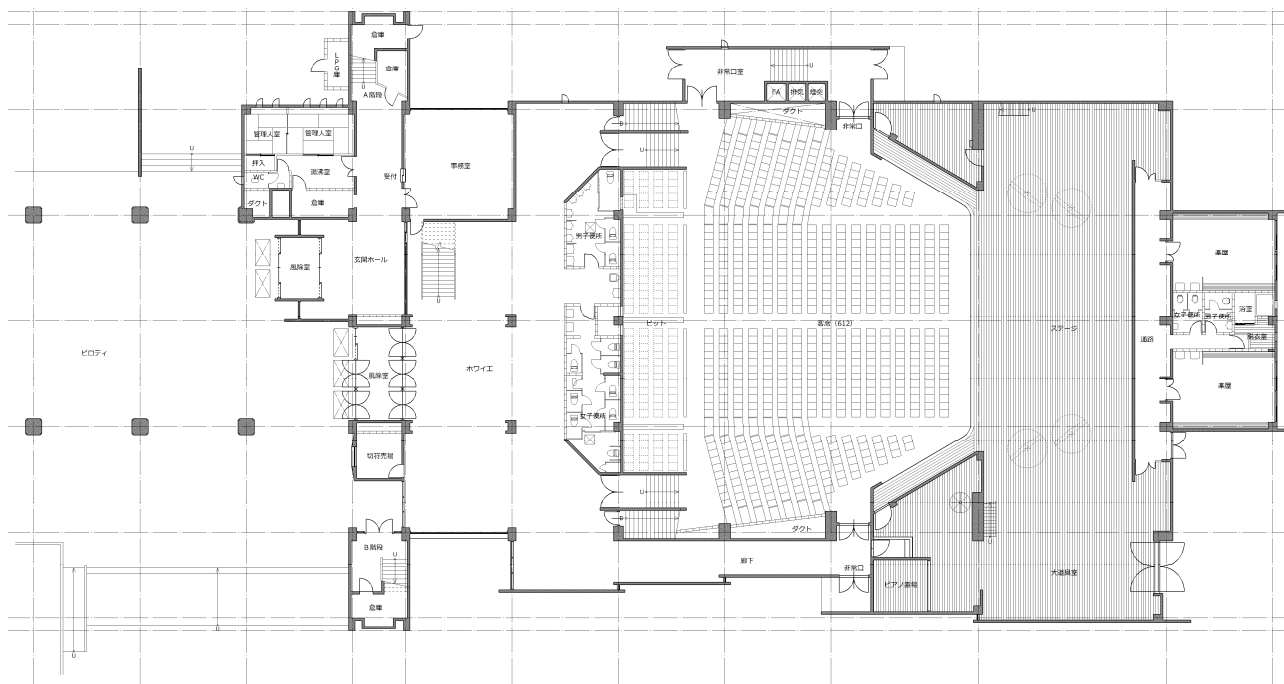


4 市民会館：昭和 43 年竣工 【平成 28 年度実施】

$I_s=0.196 \sim 1.892$

「大地震時(熊本地震、阪神・淡路大震災クラス：震度 6 強～7)の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い部分がある。」

(判定指標値： $I_{so}=0.675$ 以上が耐震性能を有していると判断)



市民会館

X方向の I_s 値： 0.603 ～ 1.528

Y方向の I_s 値： 0.196 ～ 1.892

$$I_s = 0.202 \sim 0.702$$

(判定指標値: $I_{so}=0.675$ 以上が耐震性能を有していると判断)

